



## テーマ 選書ツアー

### 先生のおすすめ E.S.先生・M.T.先生

平成最後の夏も佳境を迎えました。さて、今年度から『鍵』がリニューアルされました。表は、図書委員会の行事関連の本、裏は、お二人の先生のお気に入りの本を図書委員がインタビューし、その関連本を紹介しています。

題字 書家 二見紘子 先生

編集 5E S.O. N.H.

カット・印刷 桃 H.S.

椿 A.I.

百合 K.N.

鈴蘭 M.S.

## いつか別れる。でもそれは今日ではない。

F KADOKAWA 914.6/F11

SNS 上でのハイセンスな発言で人気を誇る F 氏のエッセイ。恋愛観や他者との向き合い方などが、憂いと寂しさのベールを纏った美しい文章で綴られており、本書で新たに得られる考え方を通じて自分の生き方を見つめなおすことが出来ます。何かに絶望していて、それでもどこか愛さずにはいられない。そんな若い世代に、まだ定まっていない柔軟な感性であるうちに、ぜひ出会ってほしい一冊です。価値観を変えられる準備は出来ていますか。

4D R.I.



選書ツアーとは、メディアセンターに仕入れる本を決めるべく、図書委員が自ら本屋に赴いて行うイベントです。

## コーヒーが冷めないうちに

川口俊和 サンマーク出版 913.6/Ka19

とある街の喫茶店には、過去に戻れるというイスがあります。けれど、過去に戻っても現実には変わらない。過去に戻れるのは、コーヒーを注いでから冷める間だけ。他にもたくさん面倒なルールがあります。このお話は、過去に戻りたい人が喫茶店に訪れる話です。どの人も過去に戻る理由が興味深く、お店やウェイトレスの雰囲気不思議で、どんどん読み進めていきます。もし、皆さんがあの日に戻れたらだれに会いますか。そんなことを考えながら読んでみてください。

桔梗 M.N.

## 千年後の百人一首

最果タヒ リトルモア 911.1/Ki86

皆さんにとって百人一首はどのようなものでしょうか。古文、身近ではない、覚えられない、なんて意見が多いでしょう。最果タヒさんによる現代の詩という形での百人一首の翻訳と、刺繍作家の清川あさみさんによる華麗な絵は、そんなイメージを払拭してくれます。二人の表現は百人一首の瑞々しさや暗さと見事に調和し、今を生きる私たちのためのものへと生まれ変わりました。今も昔も変わらない日本語の美に、心を打たれてみませんか。

4E H. A.

## 弥勒の月

あさのあつこ 光文社 913.6/A

この本は、江戸を舞台に同心の木暮信次郎が岡っ引きの伊佐治と共に、ある女性の飛び込み事件から始まる数々の事件を解決していく話です。あさのあつこさんは私が最も尊敬している小説家の一人で、比較的読みやすい作品が多く、この本も、普段本を読む機会が少ない人でも面白く感じられると思います。そしてなんといっても、あさのあつこさんの作品の特徴は、メインキャラクターが魅力的だということです。とても面白い時代小説なので、歴史好きな人にとって嬉しい一冊です。

4B Y. T.

## やさしい仏像 一生モノの基礎知識

夏江まみ 朝日新聞出版 718/N

皆さんは仏像についての本を読んだことがありますか？おそらく、手に取る機会は少ないでしょう。この本では色々な仏様が働く会社「仏カンパニー」に主人公が転職するという漫画と共に、51体の仏像を解説しています。漫画では、教科書でしか見たことのない仏像たちがたくさん話し、動き回っていて自然と愛着が湧いてきます。日本史を勉強していて文化史を深めたい人は勿論、そうでない人も是非、古代日本が生み出した仏像をこの本で堪能してみませんか。



6B Y. S.

## 一度は作ってみたいぼくの魔法のおやつ

ぼく ワニブックス 596.65/B

この本は、イラストレーターの「ぼく」さんがお菓子の作り方をかわいくイラストで描いています。オーブンを使わずレンジのみで作れるのでかわいだけでなく実用的に使えます。夏に作りたいお菓子、小腹がすいたときに作りたいお菓子とバラエティーに富んでいます。作り方も詳しく書いているのでお菓子を作るのがきっと楽しくなりますよ。私はこの本に書いてあるお菓子を作ってみました。とても美味しかったですよ。みなさんもぜひ作ってお料理上手になりませんか？

4C M. A.



## 超絶写真術

別所隆弘 他 インプレス 743/S

「インスタ映え」という言葉が昨年大流行しましたが、この本は更に素敵な写真の撮り方を今、SNS で人気な写真家7人が伝授してくれます。内容そのものは、一眼レフカメラを持っていることが前提で、用語も少し難しく感じるかもしれませんが、写真の構図の決め方や加工の仕方など、スマートフォンのカメラでも意識できるようなこともたくさんあります。これを読んで、更に「インスタ映え」な写真を目指してみたいかがでしょうか。

6C M. H.

## モモ

E. S. 先生  
おすすめ本

ミハヤエル・エンデ 岩波書店 943/E59

浦田「この本はどんなお話なのですか？」  
先生「この本には人々の時間を奪う[灰色の男たち]がでてきます。私は灰色の男たちがいるのではないかとすることがあります。」

浦田「あっ分かります。」

先生「今はインターネットなどがあり、何事も簡単にできるので、他のことをする時間がありそうでありません。そういう時、灰色の男たちがいるのでは？と考えます。時間は限りあるものなので、大切に使っていきたく感じさせられる本です。」

浦田「本当にそうですよね。私も時間を大切に使っていきたくです。」

紫苑 S. U.

## 舞台

M. T. 先生  
おすすめ本

西加奈子 講談社 文庫/913.6/N

『人間失格』を愛する 29 歳の主人公葉太は、海外に旅行に来るも、観光客らしい自分をひどく恥ずかしく感じてしまう。旅行中に盗難に遭うも自分が浮かれた観光客のようで恥ずかしいと、それもなかったことに……。そんな姿を過度に感じてしまうも、自信満々でやった恥ずかしい失敗やばれたくない気持ち、結局周囲に助けてもらったという経験が葉太と重なり、どこか共感してしまう。先生は小説のそんなところが気に入ったそうです。小説好きの先生が選んだ一冊、同作者の『サラバ!』もいいそうです。

6A M. S.

## はてしない物語

E. S. 先生  
関連本

ミハヤエル・エンデ 岩波書店 943/E59

この本を読んでまず感じたのは、ミハヤエル・エンデは本当に本を愛していたのだろうなということでした。主人公のバスチアンも相当な本の虫ですが、彼の本への思いの描写は、作者が実際に、本に対して感じていた愛情を書き綴っているように感じられたからです。また、バスチアンが行くことになる異世界ファンタジーエンの美しい景色も、その鮮明さといった自分までその世界にいるかのようです。この本の表紙にも大きな秘密が隠されているので、ぜひ手に取ってみてください。

百合 K. N.

## フリーター、家を買う。

M. T. 先生  
関連本

有川浩 幻冬舎 913.6/A71

私がこの本を読んで最初に感じたことは、「ああ、人間らしいな。」でした。主人公である武誠治は自分に甘く、プライドの高いフリーター。しかし母親が重いうつ病になったことで、誠治はそれまで逃げてきたことと向き合うようになります。ちょっとヘタレな男の成長物語、という点で『舞台』とよく似ていたので、紹介しようと思いました。人間の残酷さと情け深さを素直に表現しており、読みながらどんどん話に入り込むことができます。ぜひ家族で共有してほしい一冊です。

鈴蘭 M. S.

## ホビットの冒険

E. S. 先生  
関連本

J・R・R・トールキン 岩波書店 933/To47

この物語は、ホビットという小人のビルボ・バギンズが魔法使いのガンダルフに憑りつかれてしまい、トーリンを代表として 13 人のドワーフ達と恐竜に奪われた宝石を取り戻しに出かけるというお話です。この物語は、怖がりな主人公が、失敗をしながらも成長していき、勇気、そして知恵があれば乗り越えることができるということを教えてくれると思います。絵本も小説もあって、親子で読めるといったので選びました。

芙蓉 M. A.



4A A.U.

## 哲夫の春休み

M. T. 先生  
関連本

斎藤惇夫 岩波書店 913.6/Sa25

皆さんは一人旅をしたことがありますか。この本は中学に上がる前の春休みに、哲夫が父の故郷の長岡に初めての一人旅をする話です。哲夫は年齢の割にしっかりして見えますが、心の中では両親の離婚への寂しさを抱えています。しかし、一人旅を通して自分のルーツを知ることで、哲夫は大きく成長していきます。『舞台』とはまた違った一人旅ですが、楽しく読むことができます。また、川端康成の『雪国』を連想させる、長岡の美しい情景描写もおすすめの理由の一つです。

6DY. K.

## ヴィヴァーチェ 紅色のエイ

E. S. 先生  
関連本

あさのあつこ 角川書店 913.6/A87

私はこの本を『モモ』のファンタジーの関連本として選びました。この本は最下層地区で暮らす家族思いなヤンの妹が王女と瓜二つという理由で連れ去られるところから始まります。そこからヤンの夢や妹のその後について物語が展開していきます。たくさんの謎が出てくるので、それを推理しながら主人公を身近に感じることができ、気軽に読み進めることができます。後味として悲しみが残りますが、ヤンの性格に惹かれ、これからの彼の未来が気になる一冊です。



## ふくわらい

M. T. 先生  
関連本

西加奈子 朝日新聞出版 913.6/N

主人公の鳴木戸定は書籍編集者で福笑いが唯一の趣味です。幼いころのある体験がきっかけで自分と世間の壁を強く意識するようになりますが、個性の強い作家たちと向き合っていくうちに、自分の奥底にある本当の気持ちに気づいていくという物語です。まるでロボットのような定が人としての感情を持ち、少しずつ成長していく姿が丁寧に描写されていて印象的でした。題名の『ふくわらい』と福笑いの関係なども探してみたいでしょうか？

6E N. K.